

来、障害者福祉の良き理解者となるだろうと思えた。



取材後、障害児を持つ母親に聞いたエピソードが忘れられない。「出前講座の後、みんなが短い感想文を書いてくれたんです。楽しく遊べたとか、また会いたいとか、家族の優しさが分かったとか。どれも嬉しい言葉です。それから『将来、僕はお医者さんになりたい』と思った。いつかきつと、一緒に走って遊ぼうね』と書いてくれた子も。治せると信じてくれているんですね。小さな出会いかもしれませんが、何かを変えられたかもしれないと、実感できた瞬間です」

障害児が、健常児に夢を与えた。一つの出会いに、こんな力があるとは、想像もしていなかった。守るのではなく、支えて共に歩く未来。それを疑わない同世代の子どもたちは、近い将来、障害者福祉の良き理解者となるだろうと思えた。



環境により生まれた障害者を工夫と協力で乗り越える

今年9月、4人の重度障害児が、伊太小学校を訪れた。迎えたのは、小学3年から6年までの児童65人。地域に住む仲間として、障害児やその家族の生活に理解を深める福祉の会で、交流するためだ。

「みんなが幸せになるために」と題した出前講座の講師は、肢体不自由児者の親の会「リアンの会」の母親たち。家庭や特別支援学校での生活風景を映像で説明した後、全員が参加するジャンケン大会に臨んだ。

「グー・チョキ・パーをどうやって出すのだろう」と注目していた児童は、母親たちの機転に納得した。瞳が動くならば、目で決まり手の絵札を選ぶ。腕が動くならば、喋るボタンを押す。寝たきりでも、大きなサイ



(上・左)「福祉の会」で交流を深める子どもたち

# 相違点 共通点

## 理解 comprehension

### 違うところ似ているところ

### 会えば伝わる互いの個性



にしだ  
西田  
千沙さん  
4年生

みんなは、わがママをあまり言わないし、嘘をついたことがないと聞いて、びっくりした。我慢できるところも、自分よりもすごいと思う。また仲良く遊んで、友達になりたい。



おざわ  
小澤  
嘉乃さん  
4年生

普段の生活だけでも、障害を持っていると大変だと思う。生まれてから一度も悪口を言っていないなんて、私より偉い。どんなふうに考えて感じているのか、もっと知りたい。



かわしり  
川尻  
祐吾さん  
6年生

なぜ障害を持ったのか、そしてすぐに治るものではないと分かった。福祉の会では、僕に話し掛けてくれて、優しさを感じた。みんな、障害に負けずに、がんばっていると思った。



はせがわ  
長谷川  
ののほさん  
4年生

知り合えたみんなが、一生懸命に話し掛けてくれて、うれしかった。ジャンケンをしたり歌を歌ったり、一緒に遊べて楽しかった。障害を持っていても、みんな一緒だなと思った。



ふくだ  
福田  
千晴さん  
3年生

ルールを少し工夫するだけで、みんな一緒にジャンケンをして楽しく遊べた。みんなとは、会う機会を増やすことができたら、もっと仲良くなれると思う。次に会える日が楽しみ。



やまだ  
山田  
ののかさん  
5年生

みんな、少し不自由なところ以外は、私たちと変わらないことが分かった。障害のある人も来られるお祭りとか催しがあれば、もっと会えるし、もっと気持ち伝わると思う。

## 声 Voice

娘の茜(12歳)は、

肢体不自由で知的障害を持っている

ます。彼女は、生まれてから一度も悪口を言ったことがありません。そんな健常者が、どれほどいるのでしょうか。

障害児の育児は、暗く怖く孤独な「3K」ではなく、明

### 命を使うから「使命」

るく温かく愛にあふれる「トリプルA」だと知って欲しい。茜の微笑みには、家庭全体を照らす力があるのです。

障害を持つ子どもたちは、自らの命を使って、誕生の意義を私たちに伝えようとしています。その「使命」を果たすためには、一人でも多くの



学生や多くの人に支えられている活動



Michiko  
Sakata

島田市手をつなぐ育成会

絆くリアンの会

坂田美智子さん

http://sinadariannokai.blog.fc2.com/

命の重さは平等です。障害があっても、家族や仲間がいるこのまちで暮らしたいと願う気持ち、みんな一緒なはず。そして人権は、障害者であっても、失うものではありません。

将来だれもが、住み慣れたまちで「普通に生きる」ためには、さまざまなおしえて、正しい共生の視点を培う必要があると思っております。